

リニア中央新幹線に関する追加アンケート

コロナ禍を経てもリニアへの思いは8割が「変わらず」

当金庫がリニア沿線地域信用金庫とともに実施したリニア沿線地域共同アンケートについては、長野県分の調査結果を本誌No.488（令和元年11月）からNo.491（令和2年2月）に亘って紹介した。

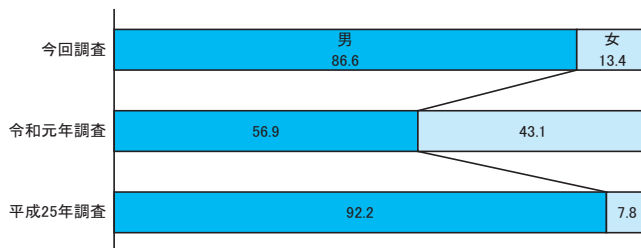
その後の新型コロナウイルス蔓延によって、私たちの「生活と仕事」は大きな変貌を余儀なくされた。その中で、地域のリニア中央新幹線に対する思いも変わっているのでは、と考えざるを得なかった。コロナ下における「リモートと分散」はリニア新幹線と相俟って新たな可能性が拓けると考えられるし、他方で新幹線による移動需要が減少し、新幹線にとっては厳しい環境となる、という考え方もあり得るだろう。そこで、地域の皆さまにアンケート調査によりご意見をお尋ねすることとした。

1. 緊急の特別調査を実施

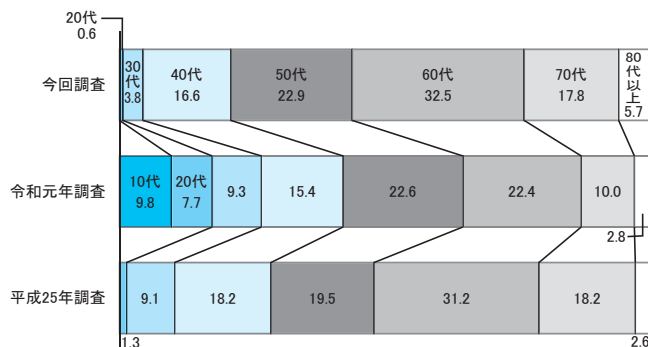
アンケートは本年3月、本誌の調査先と配布先（読者）の皆さまに調査票を送りご協力をお願いした。お忙しい中ご協力いただいた皆さまには厚く御礼申し上げます。回収総数は158件となった。

回答者の属性情報は右グラフの通り、過去の調査時の状況も併せてお示しする。これをみると今回調査は、本誌調査先・配布先を主な対象としたため、同様な方法で行った平成25年度調査の性別、年齢区分別の比率に似た構成となっている。一般の取引先にも広く回答をお願いした令和元年度調査の構成比は、これら調査とやや異なっており、今回調査は産業界、経済界の意向が元年度調査と比べてより反映されることとなり、回答に若干の変化が生じることに留意すべきと考えられる。

回答者性別



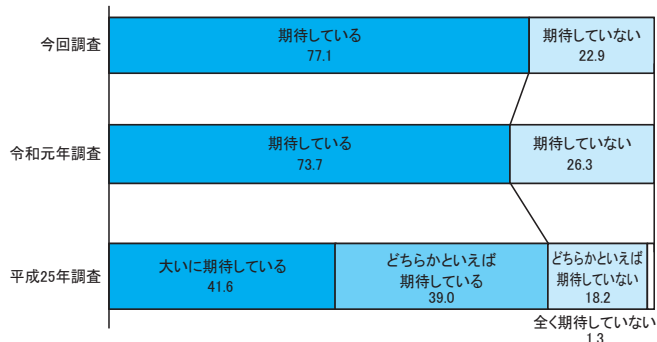
回答者年齢



2. 「リニアに期待」には大きな変化が見られず

平成25年度調査からお聞きしている「リニア中央新幹線に期待しますか」は、今回は令和元年調査時の「期待している」73.7%から77.1%とやや増加した形となった。ただ、前回調査とは、性別、年齢別等の構成比が変わっていることを考慮すると、増加したと考えるより、大きな環境変化の下でも「目立った減少は見られなかった」と考えるのが適切と考えられる。

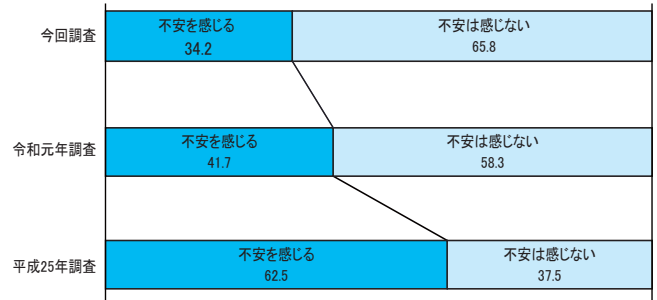
Q リニア中央新幹線に期待しますか



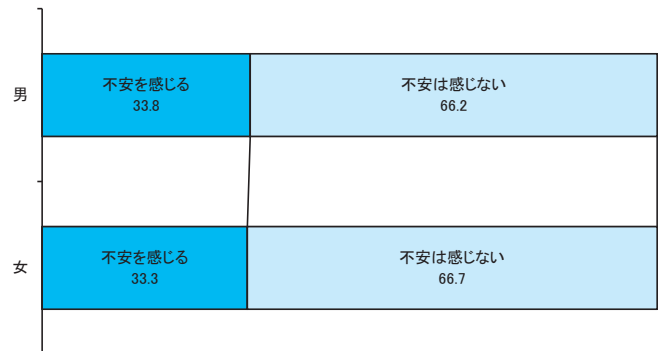
次に、「リニア中央新幹線に不安を感じますか」では、「不安を感じる」は34.2%と、これまで2回の調査と比べ減少している。これについては、リニアルートが決まったばかりの平成25年当時と比較すると、当地域の各地で工事が着手されて、工事に伴う不安などは完全には払拭できていないものの、個別に対応が進められている昨今の状況が反映したものとみられる。

もう一つは、「不安を感じますか」を男女別でみた場合、今回調査は「不安を感じる」に男女での差が殆どないことが挙げられる。一般に、このようなアンケートでは女性の方に「不安を感じる」が高く出る傾向がある。今回調査での回答者の女性比率は13.4%であるが、「産業経済動向調査」の調査先・送付先ということで、ここにも産業界・経済界の意識が投影されているのでは、と考えられるが、いずれにしる引き続き考察が必要と考える。

Q リニア中央新幹線に不安を感じますか



Q リニア中央新幹線に不安を感じますか（男女別）今回調査



3. コロナ禍を経てもリニア新幹線への思いは変わらず

コロナ禍を経て地域の皆さまのリニア新幹線への思いはどうなっているか、「コロナ禍によりリニア新幹線への思いは変わりましたか」の質問項目でお聞きした（右グラフ）。

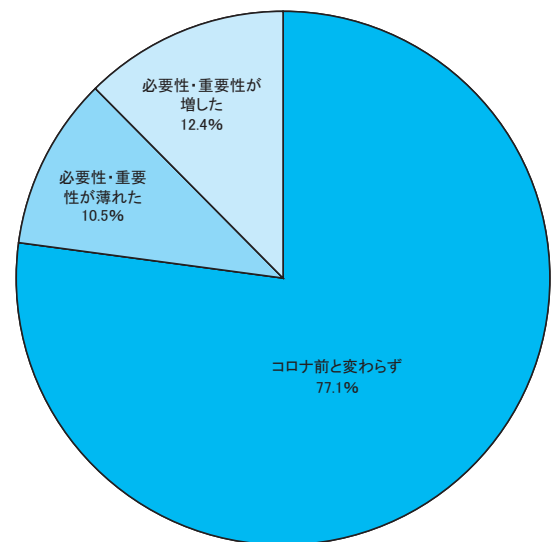
結果は、「コロナ前と変わらず」77.1%、「必要性・重要性が薄れた」10.5%、「必要性・重要性が増した」12.4%となった。3/4の方々が「変わらず」、残り1/4を「薄れた」、「増した」がほぼ半々で拮抗することとなった。

アンケート調査を行うにあたり、このコロナ禍により、新幹線の必要性・重要性は薄れることも増すことも想定できると考えた。「コロナ前と変わらず」はせいぜい半数程度で、残りを「薄れた」「増した」で分け合うことも想定したのであるが、当地域の皆さまのリニア新幹線に対する思い・期待は依然として力強いことが窺われた。

単純な三択の設問であり、それぞれの回答の思いの中身を更に深掘りしてお聞きすれば、より皆さまの思いの中身に触れることができたのではと考える。

今後機会を捉え、コロナの収束後の世界がどのように展開するか、社会や産業がどう変容していくかを見届け、その中でリニア中央新幹線がどのように位置づけられていくかを追いかけることとしたい。

Q コロナ禍によりリニア新幹線への思いは変わりましたか



（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）